



航 跡

-29-

早稲田ヨットクラブ

平成5年7月発行

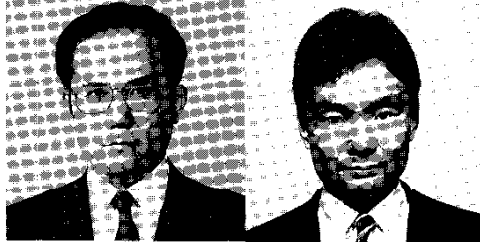
発行者・事務局長 白石裕之
編集・広報室 米田晴二
石田晋也

OBの団結を!!

土肥理事会スタート 事務局長に白石氏・経理に梅原氏就任



土肥新理事長と
下段左から白石
・梅原の各氏



(総会報告) 平成5年3月18日、永楽クラブで、早稲田ヨットクラブの年次総会が開催された。

新しい理事長に土肥丈志氏(昭和36)。事務局長は白石裕之氏(昭55)が夫々就任した。また、梅原浩一郎氏(昭60)が経理を担当してくれることになった。新理事会の構成は別表の通り。

総会では1992年度諸報告、1993年度予算諸計画が承認された後、OB、現役の新しい役員が紹介された。

今年の新OBは6人。小沢信三郎会長よりOBバッヂとエムブレムが授与された。新OB諸氏が社会人として順調に成長されることと、わが早稲田ヨットクラブの活動に新しい力となっていたことを期待したい。

2年間お世話いただいた前三役、石井哲氏、橋滋夫氏、佐々木陽一氏に厚く感謝したい。

新任のご挨拶

理事長 土肥丈志 (36年卒)

OB諸氏の皆さん、益々お元気にご活躍の御事と存じ上げます。

この度の役員改選にあたり、未熟ではございますが、名誉ある早稲田ヨットクラブの理事長をご指名戴き、果たしてその責を全うできるのかどうか、覚つかないことではございますが、各理事諸氏をはじめ、OB各位のご支援のもと微力ではございますが、全力をつくさせていただきます。積もりでございませぬ。

なにとぞ皆様の強力なるご支援を、お願い申し上げます。

現役学生諸君もすでに今シーズンに向け、新上期を中心に練習を開始しており、今年こそその意気にもえております。私に課せられた使命は、これら現役を中心とする早稲田ヨット部を日本ヨット界における最も影響力のあるものとするべく、あらゆる必要な援助を可能な限り与える、OB体制を作ることであり、その為には全OB諸氏の団結を囿らねばならないと心に誓っております。

その為には、どうしてもOB各位のお力添えを更にお願ひしなければなりません。先輩各理事長のご尽力により、格段の発展をして参った我が『早稲田ヨットクラブ』を更に充実したものとするべく、役不足ではありますが、新執行部理事諸氏と、力を合わせ全力をつくさせていただきますので、OB各位のご理解あるご支援を重ねてお願い致す次第であります。

事務局長 白石裕之 (55年)

伝統ある早稲田ヨットクラブの運営に関わらせていただく大役を仰せ付かることは、これまでヨットクラブの活動にご無沙汰することの多かった自分にとって僭越な事だと感じておりますが、お受けした以上は、土肥新理事長の下でその責任を全うしていくよう努力していきたいと思っております。

事務局の仕事は、ヨットクラブの皆様をより深めていく事であることはいまでもありませんが、更に、重要な仕事として、皆様方の早稲田大学体育局ヨット部への期待とご支援を現役部員達につなげ、共によりよいヨットクラブの発展を目指すものであると考えております。

OBの皆様のご支援を頂きつつ勤めさせて頂きたいと存じます。

経理 梅原浩一郎 (60年卒)

この度の役員改選により、経理のご指名を頂きました。早稲田ヨットクラブの財政を預かる責任ある職務を授かり、若輩の私には大変恐縮な事と感じております。

現役ヨット部時代、OBの皆様にも多大なご支援を賜った者が、今度はOBの一員としてヨットクラブ及び現役ヨット部の更なる発展のお役に立てることは大きな喜びであります。土肥新理事長、白石新事務局長をはじめ新執行部各理事の助けとなるよう未熟ではございますが、全力を尽くす所存でございます。OBの皆様のご支援、ご協力を賜わりたく、宜しくお願ひ申し上げます。

クラブの当面の問題はこんなこと。

(文責 米田晴二)

合宿所問題

1968年(昭和43年)以来25年間、三戸浜の小島合宿所を使用しています。本誌27号で『小島合宿所ものがたり』として皆さんにご理解いただいたように、小島様から全く無償で使わせていただいております。先日大学当局もこの点を強く留意し、小山宙丸総長が小島様をお招きしスポーツ功労章を贈呈されました。

一方、施設の拡張希望・改造期待もあることは事実です。小島様とのお話し合いの延長線上で実現がのぞまれております。

大型艇“稲竜”の問題

稲竜が進水したのは1964年(昭和39年)東京オリンピックの年です。今や関東水域の最長老艇です。大学の体育実技用として毎年学生諸君に親しまれております。

毎シーズンオフ卒業クルージングを楽しんだ年代もあります。昭和48年には日本一周も成功させ、日本中の稲門会と交流したこともありました。あれからもう20年です。鳥羽レース始め、相模湾の各レースでも活躍しました。仙台や西宮のインカレに応援にもゆきました。

今、稲竜は静かに油壺の水面にいたずらにマストの影をうつしております。

大型艇をどうするか。この事に具体的答えをだす時期がとうとうきました。新しい理事会体制のかゝえた問題の一つです。

- 大学の实技運営をどうするのか。
- 現役ヨット部は大型艇と無縁にしまってよいのか。
- 大型艇によるマッチレースをやりたい。先年オクスフォードが希望した時こたえられなかったじゃないか。
- 新艇をつくるとせば、先ず運営方法を決めねばならないのではないか。

稲竜に育てられた諸君。是非この問題に積極的に取り組んで下さい。

財政問題

諸先輩、各代の各理事長の指導よろしきを得て、当クラブは大きな問題をのりこえ、ふみこえ繰越金をもてる状況にあります。しかし前記二つの問題の方向づけ如何で当クラブのあり方が変わってきます。繰越金も多いのか少ないのか判断もかわってくるでしょう。

——会費自動振込制——

現在の加入者は約150人です。即ち毎年150万円は収入が確定していることになります。積極的クラブ運営、

1993～94年度早稲田ヨットクラブ役員

担当	氏名	連絡先	担当	氏名	連絡先
会長	10 小澤信三郎	自宅 03-3771-8098	34	並木 茂士	大英建設 045-432-3927
副会長	14 山田金次郎	自宅 025-375-2057	38	木村 光成	きむら屋 03-3541-0151
"	14 新名 敬一	自宅 0467-22-2400	41	石井 哲	石井貿易 03-3454-0182
"	15 田原 正信	自宅 0798-72-2309	45	北嶋 武夫	東急コミュニティー 03-3461-0417
"	15 永元 作一	自宅 0423-25-0877	46	武藤 忠	興亜火災 03-3593-1111
"	16 堀江 喜三	自宅 0463-24-9411	47	町田 吉生	三井石油化学 03-3580-4424
"	18 癸生川 正安	都賀商事 03-3876-2671	49	藤井 達也	淑徳短期大学 03-3966-7631
"	20 坪田 善男	大日本印刷 03-3266-2085	55	市村 彰浩	三井石油化学 03-3581-7471
"	22 清水 正博	北辰工業 03-3561-8037	56	橘 滋夫	H立製作所 03-3258-1111
本 部 理 事					
理事長	36 土肥 丈志	太平洋精機 03-3862-8501	4 大学	58 森田 朋愛	東レ 03-3245-5300
事務局長	55 白石 裕之	東急総研 03-3589-2745	4 大学	58 黒田 浩司	丸紅 03-3282-3433
監 査	30 濱田 裕	朝日生命 03-3342-3111	広報補	59 小田 昌一	西武百貨店 03-3981-0111
"	42 石川 光男	千代田経営開発 03-3478-6841	事務局補	59 市井 久也	長崎屋 03-3687-5407
広 報	29 米田 晴二	大丸 03-3820-7161	事務局補	63 鈴木 光宏	さくら銀行 03-3541-5532
"	37 石田 晋也	ナショナル出版 03-3370-4993	1	川原 康嗣	住友商事 03-3237-4353
総 務	40 大 興太郎	トステム 03-3638-8132	3	藤原 雅史	さくら銀行 03-3502-1531
(慶弔)	41 小濱 剛	オージー 03-3665-8346	支 部 担 当 理 事		
経 理	60 梅原浩一郎	三井石油化学 03-3583-2915	東 北	35 大野 清隆	青森トヨペット 0177-82-5671
事業部	56 中島 健治	第一生命 03-5443-5617	中 部	28 村瀬 治美	三和機械 0568-31-5163
"	57 石渡 一浩	日立製作所 044-246-1501	"	40 若松 徳生	二見館 15964-3-2003
大型艇	41 頼 義人	日商岩井 03-3588-2458	"	44 内山 憲治	福井紙業 05337-6-3165
"	48 杉井 謙治	日東鉄工 0485-63-5211	"	51 大嶋徳次郎	瓶屋 052-231-4587
	28 石井 章夫	新宿センタービル管理 03-3345-1281	甲信越	28 大塚 知明	東柳ホテル 0552-35-0005
	29 安藤 一夫	03-3824-2758	関 西	36 鈴木 融	大阪ニチロウ商事 06-365-7291
	30 千葉 栄作	045-251-3403	"	36 吉田 秀	日本アルミ 06-392-5821
	31 杉山 博保	杉山タイル 03-3271-4610	九 州	15 長医 秀名	博多港運 092-281-7651
	31 舟岡 正	巴工業 03-3271-4093	"	43 冬至 真也	とうじ 092-721-1666
	33 清水栄太郎	清水印刷 03-3941-7171	米国杯	32 武村 洋一	S&Bスポーツ 03-3552-6811
	33 加藤 文生	共栄産業 03-3442-6231	静 岡	37 伊藤 秀利	下山ボートサービス 0558-22-5511

現役への支援体制は皆さんの討議の結果によって決まるの
のですか木加入の方、是非ご参加下さい。

そして積極的にクラブ運営への提言をおねがい致します。

会費定年制のこと

何年も前から定年制を決めたとか、決めるとかの声は
あります。

今の理事会のやり方は昭和53年(15年前)からです。
規約も名簿に掲載する様にしました。その時から以後、
定年制は一切決めておりません。

しかし、定年該当者に個人的に会費の催促はしないと
いう暗黙の実行をしております。(ご寄附はお願いしてい
ます)

今後の理事会執行部も同じ姿勢です。この点ご理解の
上、クラブ運営にご協力賜りたいと存じます。

名簿作成について

昨年、平成4年度で、何年振りかで作成したのですが、
バブル崩壊の影響か、移動が激しく、修正を希望する声
が多い。

クラブ運営の基礎となる名簿は、元来毎年作るべきも
のですので、理事会決定により改訂作業を始めております。

○基本的な氏名等データは、清水印刷(清水栄太郎OB)
のノロッピーに入っています。

○住所、勤務先の点検を下記各氏に委員になっていた
きお願いしています。

○様式、構成は新しくします。

名簿作成委員

担 当 年	氏 名
昭和10年~30年	浜 田 裕 米 田 晴 二
昭和31年~39年	木 村 光 成 (38)
昭和40年~45年	木 内 博 太 郎 (40)
昭和46年~49年	武 藤 忠 (46)
昭和50年~55年	岩 崎 誠 (52)
昭和56年~59年	中 島 健 治 (56)
昭和60年~61年	梅 原 浩 一 郎 (60)
昭和62年	齊 藤 仁 (62)
昭和63年	石 井 康 夫 (63)
平成元年	川 原 康 嗣 (H-1)
平成2年	矢 口 一 馬 (H-2)
平成3年	諏 訪 康 弘 (H-3)
平成4年	石 田 博 (H-4)
平成5年	阿 部 崇 (H-5)

1992年度収支決算書(1992. 1. 1~1992. 12. 31)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	決 算 額	項 目	決 算 額
前 期 繰 越 金	¥2,954,709	ヨット部援助金	¥1,552,160
年 会 費	¥1,444,362	稲龍関係費用	¥45,780
寄 付 金	¥1,760,000	会 合 費	¥1,855,786
会 合 費	¥1,337,600	諸 会 費	¥75,803
名 簿 広 告 料	¥680,000	慶 弔 交 際 費	¥690,210
雑 収 入	¥64,473	会報印刷通信費	¥376,192
		備 品	¥84,030
		名簿印刷・発送代	¥761,271
		雑 費	¥120,515
		次 期 繰 越 金	¥2,679,397
合 計	¥8,241,144	合 計	¥8,241,144

寄付金には早慶戦記念品販売による(¥1,230,000)を含む。

次期繰越金の内訳は預金(¥2,163,015)及び現金(¥516,382)である。

1993年度収支予算書(1993. 1. 1~1993. 12. 31)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	予 算 額	項 目	予 算 額
前 期 繰 越 金	¥2,679,397	ヨット部援助金	¥1,500,000
年 会 費	¥1,600,000	稲龍関係費用	¥50,000
寄 付 金	¥1,500,000	会 合 費	¥800,000
会 合 費	¥1,000,000	諸 会 費	¥100,000
雑 収 入	¥100,000	慶 弔 交 際 費	¥700,000
		会報印刷通信費	¥400,000
		雑 費	¥100,000
		名簿改訂費用	¥100,000
		次 期 繰 越 金	¥3,129,397
合 計	¥6,879,397	合 計	¥6,879,397

福岡地区OB会報告

松本浩司 (59年卒)

早稲田ヨットクラブ福岡地区のOB会が去る5月16日福岡市沖の博多湾で行なわれ、穏やかな天気のもと博多つ了と転勤族のOB達がクルージングを楽しんだ。

福岡地区のヨット部OBは比較的頻繁に顔をあわせ活発な交流を行なっているが、今回はやや時間があいて1年あまりおいてのOB会。昨年、味の素福岡支店長として単身赴任した岡部有治氏 (41年卒) の歓迎会を兼ねたもの。

参加したのは岡部氏をはじめ冬至真也氏 (43年卒)、尾本主司氏 (43年)、庄島政美氏 (54年)、井上昌治氏 (55年) に加え、松本浩司 (59年)、入江明 (61年)。両若手の二人は新婚の夫人同伴で参加。

福岡市西区姪浜の小戸ヨットハーバーに集合した一行は、弁当に罐ビール、釣り竿などを手に冬至氏所有のクルーザー「アガベ号」に乗り込んだ。当日の博多湾は晴れ、北よりの風が3~5メートルで波穏やかな絶好のクルージング日和。岡部氏と冬至氏が交替でラットを握り、アガベ号は春の暖かい日差しを浴びながらフルセールで15キロ離れた玄海島に向かった。



午前11時にハーバーを出たアガベ号は1時間半ほどで玄海島の漁港に到着した。玄海島は博多湾の入り口、玄海灘に面した小島であり釣りの好ポイントとしても知られている。ここで昼食をとったあと、鳥影にアンカリングをして岡部氏、庄島氏など4人は釣りを楽しんだ。釣果はベラ数匹と低調だったが、日頃仕事に追われている面々は罐ビールを片手に波に揺られながら身も心もリラックスした時間を過ごした。セーリング中は若手OBはもとよりオーナーまでアゴで使っていた(?)岡部氏、ここでも竿の用意からエサのミミズのつけはずしまで庄島氏にまかせて本人は糸を垂らすだけの「殿様釣り」。2匹のベラを釣り上げ、博多のOB達の歓迎にご満悦の様子だった。

クルージング後はヨットハーバー2階のレストランで、釣りあげたベラの刺身を囲んでこの日数回目の乾杯。山崎富祥氏 (38年卒)、冬至氏夫人で43年卒のひろみ氏も合流し親睦を深めた。洋上でのOB会は初めての試みだったが、天候にも恵まれて心ゆくまで風と戯れた面々は夏の海水浴、博多湾の花火大会にも船を出そうと最後まで盛りあがった。

1993 催しのお知らせ

十大学OBレース

6月12日-13日、諏訪湖

12日夜は大懇親会

13日がレース。(スナイプ2、シーホッパー1)

初夏の諏訪湖・信州路をお楽しみ下さい。宿泊は諏訪レイクサイドホテル。

参加申込 事務局 白石へ

夏のつどい'93

日 時：9月4日(土) 10:00

場 所：三戸浜小島合宿所

催 し：OBヨット・レース、バーベキュー

ご家族共々、楽しい一日を過ぎて下さい。別途ご案内します。

実行委員長 市井久也 (昭59)

体育実技の講習会

8月2日-7日 45人 受講

8月7日-12日 45人 //

場所をご存知の岩井。下隠居です。

石井講師の指導、現役ヨット部員の方で運営されます。土肥氏の『だばはぜ』が稲竜にかかわって参加してくれる予定です。

W印の各艇の海からのご参加を期待しております。岩井の旨い活造りもお待ちしております。

連絡先、石井講師 (03-3345-1281)

下隠居 (04705-7-2011)

四大学OBレース

本年は早稲田が当番校です。

日 時：10月2日~3日 準備中

場 所：蒲郡市

ニッポン・チャレンジのベースキャンプを訪問し、アメリカズ・カップへのニッポンチームの訓練を見学する。全チームの本部スタッフ・武村(昭32)先輩と蒲郡の山内(昭44)先輩のお世話になることになります。

レース：マッチ・レース

—ご家族づれでの参加をお待ちします。

—本件 主務 浜田 裕 (昭30)

全日本 A級デインギー

7月24日 監督会議・懇親会

25日 レース (短いレースを8レース予定)

次第に参加が増えて15団体と1個人が参加希望ありとのこと。若い頃A級デインギーに親しんだ人たちの楽しいレースです。今年も明治が当番。

場所は初声マリーナ沖